

- 1 大災害が日本社会に突きつけた問い 1
- 2 本書の構成 3
- 3 ハザードとしての東北太平洋沖大地震 7
- 4 被害状況 11

第Ⅰ部 被災の現場からの社会学

第1章 広域システム災害と主体性への問い 山下祐介 27 ——中心-周辺関係をふまえて

- 1 東日本大震災の衝撃と現実 27
- 2 この震災をどう特徴付けるか？ 33
- 3 主体性の問いへ——序章としての東日本大震災 40

第2章 地域コミュニティの虚と実 吉原直樹 47 ——避難行動および避難所からみえてきたもの

- 1 東北6都市の町内会調査結果から 47
- 2 三層からなる避難者 48
- 3 「あるけど、なかった」地域コミュニティ 50
- 4 Aさんの「あのとき」、そして「いま」——聞き書きより 53
- 5 「あるけど、なかった」状況をもたらした諸要因 59
- 6 地域に埋め込まれたディバイド 60
- 7 地域コミュニティの再生は可能か？ 62
- 8 「ない」ことからの出発 64

第3章 東日本大震災における市民の力と復興 関 嘉寛 71
——阪神・淡路大震災／新潟県中越地震後との比較

- 1 東日本大震災におけるボランティア 71
- 2 災害ボランティアとはどのような存在なのか 76
- 3 救援・復旧期における災害ボランティア 81
- 4 復興における災害ボランティアの役割と課題 90
- 5 東日本大震災と災害ボランティア——これまでとこれから 98

第4章 千年災禍の所有とコントロール 金菱 清 105
——原発と津波をめぐる漁山村の論理から

- 1 災害のリスクに対処するためのコミュニティの可能性 105
- 2 「計画的避難区域」に戻るための山村の論理 108
- 3 「水産業復興特区」に対抗する漁村の論理 117
- 4 災害をコントロールする 125

第II部 原発事故と原子力政策

第5章 福島原発震災の制度的・政策的欠陥 船橋晴俊 135
——多重防護の破綻という視点

- 1 福島原発震災の発生・進行経過とその前提としての技術的欠陥 136
- 2 社会的多重防護の破綻の背景としての主体・アリーナ連関 139
- 3 原子力複合体のもとで、社会的多重防護はなぜ破綻するのか 150
- 4 日本社会の人間関係と主体性の質 155
- 5 エネルギー政策の転換のために、どのような社会変革が必要なのか 157

第⑯章 何が「デモのある社会」をつくるのか…………平林祐子 163
——ポスト3.11のアクティヴィズムとメディア

- 1 2011年、東京はなぜデモのある町になったのか 163
- 2 「これはやっとかないとまずいでしょ」 165
- 3 新しい人びと、新しいメディア——3.11後の東京の反原発 171
- 4 新しいメディアが変えた動員の手法と運動の概念 180
- 5 「デモのある社会」の作法 184

第⑰章 フクシマは世界を救えるか…………長谷川公一 197
——脱原子力社会に向かう世界史的転換へ

- 1 フクシマは世界を救えるか 197
- 2 福島原発事故の衝撃 204
- 3 ドイツはなぜ脱原子力政策に転換できたのか 206
- 5 危機からの再生 219

第Ⅲ部 大震災への社会学からの接近

第⑲章 リスク社会論の視点からみた東日本大震災……正村俊之 227
——日本社会の3つの位相

- 1 問われる日本社会 227
- 2 リスク社会論の再構成 228
- 3 近代社会としての位相 235
- 4 特殊日本社会としての位相 238
- 5 現代社会としての位相 248
- 6 危機管理体制の構築に向けて 254

第⑨章 不透明な未来への不確実な対応の持続と増幅…加藤眞義 259
——「東日本大震災」後の福島の事例

- 1 「東日本大震災」が福島にもたらした被害の性格 259
- 2 被災・避難の特徴と避難区域・地点の指定 261
- 3 コミュニケーションの問題 265
- 4 今後の課題として 269

第10章 「想定外」の社会学……………田中重好 275

- 1 津波はなぜ多くの死者をもたらしたのか 275
- 2 社会学から災害をどう捉えるか 276
- 3 東日本大震災と「想定外」 281
- 4 「想定外」の社会学的考察 303
- 5 再び、東日本大震災へ—「想定外」と今後の防災対策 319